一般社団法人日本地質学会2021年度総会

一般社団法人日本地質学会 2021年度総会議事録

１．日時　2021年6月12日（土）14:00～16:20
２．場所　Zoomオンライン会議システムによるWEB会議形式
３．出席役員
理事：磯﨑行雄（代表理事　会長）・佐々木和彦（副会長）・平田大二（副会長）
上松（渡邉）佐知子・芦　寿一郎・天野一男・安藤寿男・ウォリス サイモン・内野隆之・大藤　茂・岡田　誠・緒方信一・尾上哲治・笠間友博・狩野彰宏・亀田　純・亀高正男・川端清司・北村有迅・小松原純子・小宮剛・齋藤　眞・坂口有人・杉田律子・高嶋礼詩・竹下　徹・辻森　樹・内藤一樹・中澤努・奈良正和・西　弘嗣・根本直樹・野田篤・早坂康隆・星　博幸・細矢卓志・保柳康一・松田達生・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・矢部　淳・山口飛鳥　以上，理事43名
監事：岩部良子・山本正司　以上，監事2名
４．議長および議事録作成者
総会開催にあたり定款24条に従い本日出席の代議員から，議長として向山　栄代議員を選出した．
議長は審議開始に際し，総会規則第15条に従い書記として針金由美子代議員ならびに青野道夫代議員を指名し，また，同時に議事録署名人として，両名を指名した．
５．議事の経過の要領及びその結果
出席社員の確認
代議員（＝社員）総数　105名
議決権総数　105個
定足数　53個
出席者数　82名（議場出席者30，議決権行使書28，議場委任24）
（議決権行使書は全て，1号議案，2号議案，3号議案，4号議案，5号議案の各議案に賛成）
議長は，出席者数を確認し，総会定足数である代議員の過半数53名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し，議事に入った．

第1号議案　2020年度事業報告・決算報告・監査報告

１）中澤常務理事より，資料にもとづき2020年度の事業報告があった．昨年度行われた事業内容，執行理事会および理事会議決・承認事項について報告が行われた．2020年度は,日本地質学会第127回学術大会（名古屋大会：2020年9月9日～11日）を，新型コロナウィルス感染拡大により，1年延期することとなったが，表彰・記念講演やジュニアセッションについてはウェブを利用して開催したことが報告された．また大会代替企画として，コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウムやJABEEシンポジウム，ショートコースなどもウェブを利用して開催した．学術大会運営に関しては，講演要旨の電子化を決定したが，大会延期により次年度以降に適用することとなった．出版活動では，地質学雑誌の投稿増への取り組みとして，非会員の原稿も編集委員が認めれば受け付けられるように規則を改正した．また理事会承認事項として，地質学雑誌の電子化について2022年1月（第128巻1号）からの完全電子化が承認されたこと，各賞選考委員会による，各賞受賞者（国際賞１件，柵山賞２件，Island Arc賞１件，論文賞３件，研究奨励賞２件，学会表彰１件）の提案が承認されたことなどが報告された．事務局体制としてはコロナウイルス感染症対応へテレワークを推進したことが報告された．また，竹内圭史会員から5000万円の寄付があり，ご本人が希望されている「若手野外地質学者の育成」という使途について理事会で承認し，謹んで篤志をお受けすることとした旨報告があった．
　なお，2020年5月以降2021年5月までに逝去された会員および今年度において逝去が判明した会員24名（うち名誉会員9名）に対し，黙祷を捧げた．

２）会計担当の緒方理事から，2020年度決算について報告があった．昨年度は，学術大会が延期になった影響で関連の収入・支出が大きく減少しているが，全体としては約220万円の黒字となり，引当金の取り崩しも無かったことが報告された．
　その後，岩部良子監事より監査報告があり，事業報告および計算書類等について適正であることが報告された．
　1号議案については，地質学雑誌の電子化をオープンアクセスとするか，その場合に会員のメリットがあるかとの質問があった．これに対して，中澤常務理事より，現時点では決定していないがオープンアクセスとする方向であり，掲載論文が早く広く閲覧されることが，会員のメリットであり，結果的には地質学会の発展につながると考えているとの説明があった．
　本議案について採決の結果，全会一致（議場:30，議決権行使書28，議場委任24）で承認された．

2号議案　2021年度事業計画

磯﨑会長より，2020年度の本学会の事業成果を踏まえた2021年度の事業計画の基本方針が示された．延期された名古屋大会（第 128 年学術大会）は，2021年9月4 日（土）～7日（火）に開催し，感染拡大防止の観点から，名古屋大学での現地開催行事とオンライン開催行事とを組み合わせた方式にする．また出版活動については地質学雑誌の完全電子化を進めることが示された．
　2号議案に対しては，新型コロナウイルス感染症の影響によって削減された予算が削減されたままになる恐れがないかとの書面質問があり，緒方執行理事より再び活動ができるようになれば，適宜対応したいとの説明があった．
　本議案について採決の結果，賛成多数（議場:30，議決権行使書28，議場委任24），反対1（議場：1）で承認された．

3号議案　2021年度予算案

緒方理事から，2021年度収支予算案について説明があった．会員減少に伴い会費収入が減り，年会参加者数も減少することが見込まれるため，引き当て預金を377万円取り崩す必要があることが説明された．支出は地質学雑誌128号1巻からの完全電子化を想定していることなどが説明された．
　3号議案については，事務所を家賃の安い郊外に移転するべきではないかとの書面質問があり，それに対して緒方執行理事より，現在の事務所が周辺相場の半額程度の家賃であることから近郊移転のメリットが少なく，現在の事務所の大半を占める書籍類の棚卸しなどを進め，事務所面積を減らす事から検討したいとの説明があった．
　本議案について採決の結果，全会一致（議場:30，議決権行使書28，議場委任24）で承認された．

4号議案　名誉会員の選出

佐々木名誉会員推薦委員会委員長より，候補者3名について紹介があった．そのうち女性の名誉会員選出は今回初めてとの報告があった．
　4号議案については，現在の名誉会員が大学教授に偏っており，会社員などにも門戸を広げる必要があるのではないかとの書面質問に対して，佐々木委員長より，現行では理事と専門部会から推薦される規則になっており，それらの中でダイバーシティーを考慮した推薦をお願いしたいとの説明があった
　本議案について採決の結果，全会一致（議場:30，議決権行使書28，議場委任24）で承認された．

5号議案　学会運営規則の改正

磯﨑会長より学会運営規則第7章表彰制度の改正について，日本地質学会功績賞，日本地質学会ナウマン賞，日本地質学会地質学雑誌特別賞，日本地質学会ジュニアセッション優秀賞・奨励賞の新設，日本地質学会功労賞の廃止および日本地質学会賞，小澤儀明賞，

柵山雅則賞，日本地質学会研究奨励賞の各賞についての選考基準の変更，日本地質学会Island Arc賞からIsland Arc Awardへの名称変更について説明があった．

5号議案については，各賞の変更点の補足説明を求める書面質問を含め，選考対象年齢の変更や賞の具体的な内容について議論がなされた．磯﨑会長からは，今回の表彰制度の見直しは，各年齢層に対応する賞を設定し，そのうえで特に若手の研究奨励を手厚くすることが目的であり，対象年齢の変更に伴う不利益が生じないような配慮も行った．今後もよりよい表彰制度になるようさらに検討をすすめたいとの説明があった．

本議案について採決の結果，全会一致（議場:30，議決権行使書28，議場委任24）で承認された．

以上をもって審議を終了した．最後に磯﨑会長より，コロナ禍では学会活動も制限を余儀なくされているが，ウェブを活用した新しい企画など良い面は今後も継続したい．また，地質学会の若い世代の活性化を進めたいとの挨拶があり，議長は閉会を宣言した．

2021年6月12日

以上，決議を明確にするためこの議事録を作成し，議長，副議長および出席理事がこれに記名，押印する．

一般社団法人日本地質学会2021年度総会

総会議長　向山　栄

議事録署名人　針金由美子

議事録署名人　青野道夫

代表理事　磯﨑行雄

理　事　中澤　努

以下，理事氏名省略